令和2年度

教育に関する事務の管理及び

執行の状況の点検・評価報告書

子ども議会

幼稚園給食

熟議

オンライン英会話

令和3年3月

早 島 町 教 育 委 員 会

－ 目　次 －

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　教育委員会の活動状況

1　教育委員会会議の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　研修会及び協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

3　総合教育会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1　教育委員会の体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

2　教育委員会の点検・評価の視点　・・・・・・・・・・・・・・　5

3　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価・・・・・・・　6
①　会議の運営等
②　教育委員会の公開性
③　基本的・総務的な事務の管理
④　人的管理事務

4　学校教育重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・　9

5　生涯学習重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・　１８

Ⅳ　点検・評価に関する有識者からの意見　・・・・・・・・・・・　２４

Ⅴ　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６

Ⅰ　はじめに

１　点検評価の趣旨

平成１９年６月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第２６条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

２　点検評価の対象及び方法

教育委員会が令和２年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

〈参考〉
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ　教育委員会の活動状況

１　教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏　　名	性別	任　　期
教　育　長	徳山 順子	女	H27.12.26 ～ R3.12.25
教　育　長 職務代理者	大森　　茂	男	H29. 4. 1 ～ R3. 3.31
委　　員	綾野 克紀	男	H29. 4 .1 ～ R6. 3.31
委　　員	竹井　成範	男	H30. 4. 1 ～ R4. 3.31
委　　員	栗坂　祐子	女	H30.10. 1 ～ R4. 9.30

審議案件等

開催日	議　　決　　等　　事　　項
４月２０日（月）	【議決事項】 （１）教育長に対する事務委任規則改正案について 【議事事項】 （１）令和２年度の重点施策等について （２）令和２年度学校園の組織編制について （３）新型コロナウイルス感染症への対策について
５月２２日（金）	【議決事項】 （１）会計年度任用職員制度の導入に伴う関係規則等の整理等に関する規則等の制定について 【議事事項】 （１）新型コロナウイルス感染症への対策について （２）スタインウェイピアノ等使用料の見直しについて
６月１７日（水）	【議事事項】 （１）早島中学校の授業参観について （２）新型コロナウイルス感染症への対策について （３）ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて （４）熱中症対策について

７月１６日（木）	【議決事項】 （１）例規の廃止について ・幼稚園就園補助金交付要綱 ・早島町特別支援教育支援委員会規則 ・早島町立学校食育推進委員会設置規則 【議事事項】 （１）令和２年度教育問題への取組について （２）夏季休業中の朝型勤務について
８月２６日（水）	【議決事項】 （１）早島町公民館規則の改正について 【議事事項】 （１）熱中症および感染症対策について （２）新型コロナ対応臨時交付金事業について
９月２９日（火）	【議決事項】 （１）早島町立図書館規則の改正について （２）スタインウェイピアノ等使用料の見直しについて 【議事事項】 （１）早島町学力・学習状況調査結果の概要について （２）新型コロナウイルス感染者の発生時の対応について （３）第１回学校評価について
１０月２１日（水）	【議決事項】 （１）ハラスメントをなくすために職員が認識すべき事項についての指針について 【議事事項】 （１）早島小学校の授業参観について （２）令和２年度ＩＣＴ活用授業・研修等の計画について （３）令和２年度学力定着状況確認テストの実施について （４）第１回学校評価の経年比較について
１１月１３日（金）	【議事事項】 （１）令和３年度 教育施策について （２）早島町セキュリティポリシーについて （３）令和４年度以降の成人式について （４）「第３次岡山県教育振興基本計画」素案について （５）児童生徒の不登校の状況について
１２月２０日（金）	【議事事項】 （１）義務教育学校検討会施設部会からの提案について （２）岡山県学力・学習状況調査の結果について

	（３）１人１台タブレット端末導入について
１月２１日（木）	【議事事項】 （１）早島幼稚園の保育参観について （２）義務教育学校の検討について （３）第２回学校評価について
２月１９日（金）	【議決事項】 （１） 早島町社会教育施設等の使用料に係る減免基準を定める規定の改正について （２） 早島町家庭教育支援チーム設置要綱について 【議事事項】 （１） 令和２年度教育に関する業務の管理及び執行の点検・評価報告書について （２） 義務教育学校「はやしま学園（仮称）」に関する提言について （３） 令和３年度の教育関係予算案について
３月１２日（金）	【議決事項】 （１）早島町社会教育事業費交付金要綱について （２）早島町社会教育団体等補助金等交付要綱について （３）早島町子ども読書活動推進計画策定協議会開催要綱について 【議事事項】 （１）来年度の教職員人事等について

２　研修会及び協議会

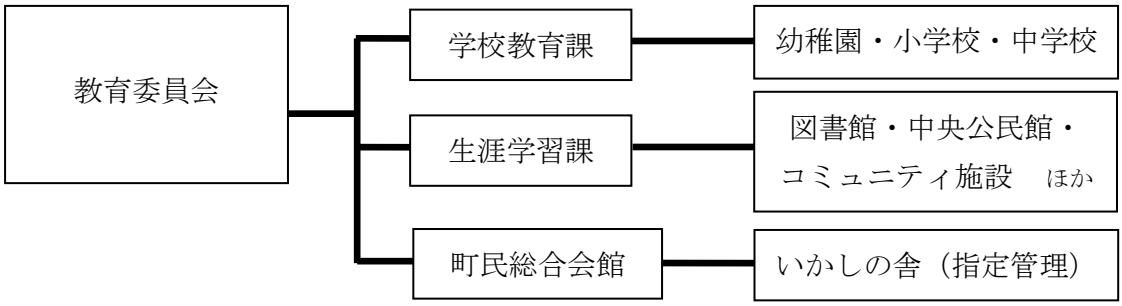
開催日	研　修　会　名　等
８月	令和２年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（書面開催）
８月　１日（土）	第１１回子どもと大人の意見交流会（熟議） 参加者：教育長　他１名
１１月　５日（木）	令和２年度岡山県市町村教育委員会委員研修会（Web 会議） 参加者：教育長　他３名
１２月１２日（土）	第１２回子どもと大人の意見交流会（熟議） 参加者：教育長　他１名
１２月２３日（水）	全国市町村教育委員会オンライン協議会（Web 会議） 参加者：教育長　他１名
３月　６日（土）	第６回教育のまち・はやしま子どもフォーラム 参加者：教育長　他１名

3　総合教育会議

開催日	議　決　等　事　項
８月２６日（水）	第１回総合教育会議 【議事事項】 （１）義務教育学校について
２月１９日（金）	第２回総合教育会議 【議事事項】 （１） 義務教育学校「はやしま学園（仮称）」に関する提言を踏まえて （２） 来年度の予算案等について

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1　教育委員会の体制



2　教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
① 会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
② 教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③ 基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④ 人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

①　会議の運営等

項　目	会議の回数、円滑な進行
計　画	会議の実施回数は年間１２回として、事務局から早めに適切な情報を提供し、会議運営を円滑に行うことに努めるとともに審議を深めることで、会議の充実を図る。
成　果	○開催回数は１２回、総合教育会議２回で、充実した審議が行えた。 ○議案、協議事項の審議及び報告について厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換を活発に行った。 ○義務教育学校については、複数案を協議し、積極的な意見交換を通して、方向性を定めた。 ○授業公開日や行事等には、積極的に参加し、各学校園の状況を把握した。
評　価	・毎回の会議で、事業の進捗状況や学校園の様子を理解するなど、円滑に協議を行うことができた。 ・学期毎に学校園訪問日の設定や、公開授業・行事等に積極的に参加するなど、学校園の状況把握に努める必要がある。 ・義務教育学校については方向性が決まり、今後保護者や地域への広報等を行い、前に進めていく必要がある。

②　教育委員会の公開性

項　目	会議の公開、事業内容等の広報
計　画	教育委員会の会議録を毎月ホームページへ公開し、実施事業等を広報誌や配付物で周知し、町民に教育行政に対する関心を高める。
成　果	○早島町学校教育ビジョンやはやしま学支援本部の活動等は、ホームページや町広報誌、教育フォーラム等で積極的に広報した。 ○教育委員会会議の会議録は毎月ホームページに掲載した。
評　価	・教育委員会の開催については事前に告示し、会議録は毎月ホームページ上に公開しており、今後も引き続き行っていく。 ・学校園の取組やはやしま学協働本部を中心とした教育活動などを今後も様々な方法で地域住民等に広報していく必要がある。

項　目	町長等との連携
計　画	町長が出席する総合教育会議を年２回、教職員や学校運営協議会委員が出席する学校運営協議会を年６回開催し、情報交換を密に行うことで、改善に向けた貴重な意見を施策に反映する。
成　果	○年２回開催した総合教育会議では、義務教育学校について検討を重ね、

	毎週の町課長会議等では学校教育や生涯学習等について適宜資料をもとに情報交換を行った。 ○幼小中合同の学校運営協議会の事務局を小学校に置き、年６回実施した。保護者の学校評価を年２回実施し、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化を見取り、教育委員会でも成果や課題の共通理解を図った。また、学校関係者評価を年２回実施し、学校運営の改善につなげた。 ○８月、１２月に「子どもと大人の意見交流会（熟議）」を実施し、児童生徒・地域住民が活発な意見交換を行い、地域課題や改善等を共有した。 ○２月の「子ども議会」、３月の「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」では、学校園代表が、総合的な学習等で１年間探究してきた学びの成果を保護者・地域・役場の方などに提案・発表した。 ○義務教育学校については、施設部会・カリキュラム部会を開催し、それを踏まえて教育委員会でも何度も協議を重ね、方向性を検討した。
評　価	・学校運営協議会については、学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会の３部会の充実により、積極的な学校支援に取り組んだ。 ・学校教育ビジョンの推進に向けた「子ども議会」「熟議」「英語暗唱大会」「はやしま子どもフォーラム」等では、一定の成果を上げており、子どもたちからの提案・発表等が地域の活性化につながっている。

③　基本的・総務的な事務の管理

項　目	方針・事務事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
計　画	年度始に教育行政重点施策を策定し、円滑に事業が実施されているかを年度末に確認する。また、必要に応じて規則の制定・改廃を行う。
成　果	○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。 ○施設整備としては、小学校１舎３階及び職員トイレの洋式化改修工事、小学校防球ネット整備工事、小学校図工室・家庭科室・給食調理場空調設置、特別支援学級間仕切り壁設置、中学校金工・木工室空調設置等を行い、教育環境を整えてきた。 ○生涯学習課の事業については、社会教育委員会議において、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。
評　価	・小学校校舎のトイレ洋式化、小・中学校の特別教室の空調設置が完了し、過ごしやすい学習環境となったが、校舎も老朽化してきており、今後とも計画的・継続的に整備を進めていく必要がある。 ・義務教育学校に向けて３案を検討したが、保護者・地域の方の意見や、予算等、今後の方向性を探っていく必要がある。

④ 人的管理事務

項　目	教職員等の人事
計　画	幼稚園、小中学校の規模や実態の応じた適正な人員配置を行う。
成　果	○小中学校においては３５人以下学級を継続している。 ○小１グッドスタートは、県の配置（４月～１０月）に加え、町独自で、１１・１２月を実施し、４月～１２月まで教育支援員を配置した。 ○小中学校に学校司書を配置し、町立図書館と連携しながら、計画的な蔵書整備など図書館の環境整備を行い、読書活動の充実を図った。 ○不登校対策として、小学校に登校支援員２名配置し、登校しにくい児童への家庭訪問など、効果的な支援を行った。 ○業務アシスタントを、小中学校に配置し、働き方改革の充実を図った。 ○小学校には、英語専科教員を配置しており、ＡＬＴとのＴＴ授業で英語教育の充実を図った。
評　価	・小中学校における３５人以下学級、小１グッドスタートの延長、教育支援員の配置は、落ち着いた学習環境のために継続していく必要がある。 ・小学校英語の教科化に向けて、ＡＬＴを小中学校に各１名配置したことや、小学校に英語専科教員も配置し、英語授業の充実が図れている。 ・小中学校の町費講師の配置は、教科担任制や学力向上を進めていくにあたり、効果的に運用できている。

項　目	研修の実施
計　画	教育委員会が主催する全学校園の教職員を対象とした研修を年度始に位置づけ、計画的・意図的に開催し、指導力の向上に努める。
成　果	○夏季研修会では、特別支援教育の充実を図るための講義を行い、教室の環境づくりや児童生徒への声かけ、個別の支援の方法などについて共通理解を図った。 ○非認知能力の「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の育成に向けて、講師を招聘し、講義・演習を行った。幼児期からの育成の大切さや家庭との連携の必要性を学び実践につなげてきた。 ○学級づくり研修会では、講師を招聘し、授業参観・示範授業・講義演習を行い、子どもたちへの関わり方や声かけ等について「ほめ言葉のシャワー」を学び、学級への居場所づくりにつなげた。 ○道徳の充実に向けて、講師を招聘し、授業づくりの基礎基本や中心発問のあり方・道徳資料の内容項目や、学習評価の工夫等について研修を行い、「コロナ禍での道徳」の授業づくりへの意欲を高めた。
	・特別支援教育研修会は、教育支援員も対象に研修を行うことで、教員と教育支援員の方向性をそろえ、共通理解が深まった。

評　価	・非認知能力についての研修会では、保育園の職員にも積極的な研修の参加を呼びかけ、幼児期からその育成に取り組むよう理解を深めた。 ・学級づくり研修会での示範授業では、児童生徒が発言しやすい雰囲気づくりや称揚の声かけなど実践につながる取組となってきつつある。 ・道徳研修会では、コロナ禍の影響で一部リモートでの演習となったが、対面での研修を望む声が多く、教材を読み込み、適切な発問を行うことの重要性について改めて考えることができた。

4　学校教育重点事業に対する評価

○数値目標(全国学力・学習調査が中止のため、県調査(小５、中２)で明記できる数値を記入)

項目	県 (Ｒ１の現状)	県目標値 (Ｒ６)	早島小		早島中	
			R1	R2	R1	R2
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差（小６中３）	【小６】 国　：　0.6 算　：▲1.7 【中３】 国　:▲0.3 数　：　0.3 英　:▲1.6 （▲マイナス）	全国平均正答率を超えることを目指す。	【小６】 国:　5.8 算:▲0.2 （▲マイナス）	実施なし	【中３】 国:　1.6 数:　1.4 英:　2.3	実施なし
小中学校における不登校の出現割合（児童生徒１千人当たり）	13.3 人	9.6 人以下	8.7 人 ※（7 人）	6 人 ※（5 人）	41.8 人 ※（14 人）	50.2 人 ※(18 人)
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小６中３)	小６　72.1% 中３　64.6%	71.0% 70.0%	61.1%	62.7% (小５)	87.9%	83.9% (中２)
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合（小６中３)	小６　65.9% 中３　44.1%	70.0% 50.0%	73.3%	66.7% (小５)	48.1%	35.6% (中２)
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合(小６中３)	小６　55% 中３　38.9%	50.0% 60.0%	45.0%	60.0% (小５)	50.9%	56.0% (中２)
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小６中３)	小６　44.7% 中３　36.5%	50.0% 50.0%	42.0%	41.3% (小５)	46.3%	52.5% (中２)
１週間の総運動時間数が 60 分未満の児童生徒の割合（小５中２）	小５男子 6.6% 中２男子 5.5% 小５女子 9.2% 中２女子 17.5%	5.2% 5.8% 11.0% 21.2%	男子 7.0% 女子　0%	実施なし	男子 9.1% 女子 23.8%	実施なし

○重点事業

重点項目	一貫教育の推進
目　的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備えた、幼児・児童・生徒の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。
計　画	・ＥＳＤとキャリア教育の視点を踏まえたカリキュラムの構築を図る。 ・小中学校で一貫した英語授業の充実に取り組み、「Can Do リスト」を活用して、英語で自分の考えや思いを伝えあう教育環境をつくるとともに、オンライン英会話や English Day 等の充実を図る。 ・小学校高学年で教科担任制を導入し、専門性の高い指導を行うことで、学力向上を図るとともに、教員の働き方改革を進める。 ・保育園・幼稚園・小学校・中学校の１５年間で目指すべき子ども像を踏まえた授業改善に取り組み、教員の指導力向上を図る。 ・学びの質や深まりに焦点をあて、教科や道徳、総合的な学習の時間等において児童生徒がより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法について講師を招聘し、教員参画型の研修会を実施する。 ・義務教育学校の整備に向けて、「施設部会」を年６回と「カリキュラム部会」を年３回実施し、その方向性を探る。 ・小学３年生～６年生、中学１年生～３年生に学力・学習状況調査を行い、児童生徒の学力を把握・分析し、教育指導の成果と課題を検証し、全教職員で授業改善の徹底を図ることで教育効果を高める。 ・はやしま学園運営協議会では、学校評価を幼小中の共通項目で行い分析した結果を踏まえて、１年間の取組に対して「学校関係者評価」を実施し、保護者・地域・委員等の意見を反映した学校改善を行う。
成　果	○小学校高学年では、教科担任制を導入し、副担任として専科１名を配置した。専門性を生かした授業改善を図るため、小中合同の教科会を定期的に設定し、一貫性のある授業づくりに取り組んだ。教科担任制は好評であった。 ○全国学力・学習状況調査がコロナ禍の影響で中止となったが、岡山県・早島町学力・学習状況調査を実施し、その課題を踏まえた「学力向上のためのラッキー７計画」を作成して授業改善を図った。 ○義務教育学校の整備に向けて、「施設部会」と「カリキュラム部会」を立ち上げ、有識者のもと一定の方向性を定めた。 ○ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえて、教科等横断的な単元学習プログラムを構築し、授業改善を図ることができた。中学校ではＳＤＧｓ週間を設定し、教科等横断的な探究活動に全学年で取り組んだ。中学校での研究指定は最終年度であり、全国に研究報告を発信し、好評を博した。
今後の方向性	・学力・学習状況調査結果から、小中学校ともに算数・数学が県平均を下回る

	結果であり、授業で適用問題に取り組み、家庭学習で復習時間をとるなど、学習内容の定着に向けて取り組むとともに、土曜・放課後はやしま塾で、算数・数学に焦点を当てた学力保障に取り組む必要がある。 ・小中学校の各教科で合同教科会を行い、児童生徒が主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や、一人一台端末に向けたＩＣＴ活用の授業づくりについて研究を深め、各教科等の授業改善に取り組む。 ・ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえた探究活動に、ＩＣＴをツールとして効果的に取り入れ、カリキュラムの再構築に学校園が一体となって取り組む。 ・長期欠席・不登校の児童生徒の減少に向けて、一人一人の気持ちに寄り添った早期支援はもちろんのこと、こころの教室や家庭での学力保障を行う。

重点項目	社会とつながり未来を拓く「はやしま学」の充実
目　的	早島町学校教育ビジョンに基づき、「はやしま学」の充実を図る。
計　画	・大学や専門機関と連携した「English Bus ツアー」や「科学バスツアー」など、知的好奇心を高める「子どもカレッジ」を開催する。 ・教育支援コーディネーターを中心に、土曜・放課後はやしま塾や土曜英会話、算数ロゲイニングなどを企画・運営し、地域での児童生徒の学びの場を提供する。 ・地域での活動を充実させるため、大学生・留学生・地域住民等による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保を行う。 ・長期休業中に４年生～６年生を対象に「わくわくサマーホリデイ」「わくわく算数教室」などを開催し、大学生講師を招いて算数の学力向上を図る。 ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」「中学生だっぴ」「早島 English Day」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行う。
成　果	○児童生徒の地域での学びの機会を保障するため、土曜・放課後はやしま塾や土曜英会話は感染予防を行って実施した。特に、土曜はやしま塾は、感染予防のため、学年や時間、場所を分けるなど工夫を図った。しかしながら、子どもカレッジは中止せざるをえなかった。 ○中学１年生を対象に、生き方を考える「だっぴ」の開催、中学２年生を対象に、留学生との「早島 English Day」を開催し、生徒の意識変容が見られた。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して１２月に英語暗唱コンテストを開催したが、小中学生３０名が参加し、英語への意識の高まりを年々感じる。 ○熟議や子ども議会、はやしま子どもフォーラムなど、園児児童生徒の地域提

	案を発信する場づくりは好評であった。 ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を年６回開催し、全教職員による全体会を年３回実施した。保幼小中の教職員を４部会に分けて、各部で一貫教育に向けた研究に取り組んだ。
今後の方向性	・一貫したカリキュラムの構築に向けて、早島町学校教育ビジョンの４部会で重点項目を決めて意見交流を行い、特色あるカリキュラムを作成する。 ・感染状況等を鑑みながら、土曜・放課後はやしま塾、土曜英会話、ロゲイニング等の更なる工夫を行っていくとともに、大学や専門機関との連携でEnglish Busや科学ツアー、早島夢の宝島ツアーin Englishなど、児童生徒の学びや体験の場を保障する。 ・教育支援コーディネーターを中心とした支援体制のもと、大学生や留学生の活用、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の計画的な人材確保に努める。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてを工夫する。 ・英語・漢字・数学検定を年３回ずつ実施し、英語検定では、早島町英検受検応援制度を活用して、中学３年生までに英検３級以上の取得を目指すよう工夫する。 ・一貫教育を更に進めていくために、小中学校で教育内容と方法を連続させた教育課程の編成・実施を行うとともにシラバスを作成する。

重点項目	放課後学習サポート事業
目　的	放課後の児童生徒の補充学習・発展学習を行い、学力向上を図る。
計　画	・学校の授業や家庭学習等で、Web教材を活用し、自らの学習状況に合わせ、個別最適学習ができるよう新たに整備する。 ・小学校では、毎週水曜日の放課後に小学２・３年生、金曜日の放課後に小学１年生を対象に、算数の単元別確認問題、下学年の復習問題や発展問題にも取り組み、学習内容の定着を図る。 ・中学校では、毎週水曜日の放課後、数学・英語の補充学習を行い、免許のある指導員等が学習支援を行い、学力向上を図る。 ・「スタディ・パスポート」を活用し、児童生徒自らが学習目標や学習計画を立てることで、自学自習力や学習意欲の向上を図る。
成　果	○小学校での放課後はやしま塾は、小学１年生４３名、２年生４８名、３年生１３名の参加があり、算数の補充プリントを中心に、支援員８名を配置して学習内容の定着を図った。学年や小グループに分けたことで、丁寧な解説や支援を行うことができた。

	○「スタディ・パスポート」を活用して、学習前に自らすべき学習内容を書き込むことで、目標を明確にして学習に取り組むことができた。 ○中学校では、数学と英語の指導員を１名ずつ配置し、一人一台端末を活用したタブレットドリルや、入試問題や英検に対応した学習に取り組んだ。 ○小中学校とも、教育支援コーディネーターを中心に、実施日程や支援員の調整を行い、安心して学習できる環境づくりを行った。
今後の方向性	・放課後はやしま塾のサポート体制では、対象学年を小学１～３年生、中学１～３年生としているが、学年やグループに分かれ、更に学習効果を高めるよう工夫する必要がある。家庭でのタブレット学習の充実を図る。 ・中学校は、数学・英語を中心に、発展問題や入試問題、学力調査問題などに取り組むとともに、基礎基本の定着にはタブレットドリル学習を活用する。

重点項目	不登校対策事業
目　的	早島町適応指導教室（ふれあい教室）や中学校のこころの教室で、児童生徒の心の支援や学習サポートを行う。
計　画	・教育委員会で、「不登校親の会」を年３回開催し、個別相談を通して、子どもへの思いや学校への期待を聴き、保護者支援を行う。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを効果的に活用する。 ・町ふれあい教室に支援員を週５日配置し、不登校児童生徒の生活リズムの向上や学習支援などを行い、学校登校へのサポートをする。 ・「不登校対策担当者会」を年６回開催し、登校支援員・担当教員・教育委員会等が情報を共有し講師を招いた研修をすることで、未然防止に取り組む。 ・小学校に登校支援員２名を配置して、登校アプローチや校門前等で児童や保護者へのきめ細かな支援を行う。
成　果	○適応指導教室（ふれあい教室）や中学校の心の教室に、支援員を配置し、児童生徒の居場所づくりができた。 ○各校に配置したスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが、学校と家庭をつなぐ役割をしており、関係機関との連携が円滑であった。また、スクールカウンセラーによる研修も実施した。 ○幼稚園・小学校・中学校の担当教員等が不登校対策担当者会で支援者リストを用いて情報を共有し、欠席状況や家庭環境等を把握し、ケース会議や早期対応、個別支援につなげた。 ○一人一台端末となり、ふれあい教室や心の教室でのタブレットドリルの活用が進んでいる。学習に対して不安を抱いている児童生徒も多いため、下学年から復習が可能なタブレット学習は好評である。

今後の方向性	・小学校の不登校対策担当者が、登校支援員２名の役割を明確にして、登校支援と児童・保護者支援を行っていく。 ・小学校高学年から長期欠席・不登校生徒数が増加しており、中学校への円滑な引き継ぎや情報連携を行うとともに各学校園の支援体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの活用について、毎月の勤務日や役割の周知など、保護者・児童生徒に向けて、毎月定期的に積極的な広報を行い、配置時間の有効活用に取り組む。 ・適応指導教室（ふれあい教室）に支援員を週５日配置し、学校との連携を深め、不登校児童生徒の生活リズム改善や学習サポートを行うなどして、学校への登校ステップとする。 ・不登校対策担当者会を２か月に１回実施し、幼小中の情報共有や支援の充実、具体的な取組等を意見交換することで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に徹底して取り組む。 ・町教委で「学校に行きにくい児童生徒の保護者懇談会」を開催し、個別相談を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援や学校支援を行い、行きやすい環境整備を行う。

重点項目	ＩＣＴ教育の推進
目　的	ＩＣＴ機器の活用により、児童生徒の学習意欲の向上、校務の情報化による教員の事務負担の軽減等を図る。
計　画	・小中学校でのプログラミング教育や、全教科で ICT 活用の授業づくりを進めるために、教職員研修の実施や情報教育推進に向けたリーダー育成を行う。 ・小中学校の主体的・対話的で深い学びを実現するために、iPad の効果的な利活用で個別最適化学習や探究学習の充実を図る。 ・ＩＣＴ活用指導力の向上に向けた研修やＩＣＴ活用計画の作成などを通して、教員の授業力の向上に努める。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ＩＣＴ機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間の確保と「働き方改革」を進める。 ・自学自習のための Web 教材に主体的に取り組む児童生徒を増やす。 ・小中学校に、ＩＣＴ教育支援員やＧＩＧＡスクールサポーターを配置して、授業や校内研修の充実を図る。
成　果	○ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて、「ＩＣＴ活用授業・研修等ロードマップ」を作成し、情報化推進委員会やＩＣＴ機器の整備、教職員への研修等を計画的に進めることができた。 ○学校園の管理職と情報教育推進リーダーが出席する「教育の情報化推進委

	員会」を毎月開催し、推進リーダーの育成に努めるとともに、校内で伝達研修を行うことで全教職員の指導力の向上を図った。 ○自動採点機能をもつ Web 教材や、豊かな授業づくりに役立つ授業支援ソフトを導入して、一人一人に応じた学習や協働学習を積極的に行い、児童生徒の学習意欲を高めた。 ○１０月から小中学校に、ＧＩＧＡスクールサポーターを配置し、ＩＣＴ教育支援員と一緒に環境整備やシステム支援を行い、教職員の積極的なＩＣＴ活用を進めるとともに、教職員の負担軽減にもつながった。
今後の方向性	・児童生徒の主体的な学びに向けて、ＩＣＴ機器の効果的な活用を進めるため、継続的に月１回「教育の情報化推進委員会」を開催し、情報化推進リーダーのもと校内研修の充実を図り、全教職員のＩＣＴ指導力の向上を図る。 ・自学自習用の Web 教材や授業支援ソフトの活用を進め、一人一人に最適な学習支援を行い、分かる授業や主体的な家庭学習支援に努める。 ・校務にアプリを積極的に活用し、ＩＣＴ教育支援員の効率的な授業支援や事務等のＩＣＴ整備を行うことで、教職員の児童生徒と触れ合う時間の確保と働き方改革を行う。

重点項目	小学１年生グッドスタート事業
目　的	入学した小学１年生に対して生活習慣や学習習慣づくりの支援を行う。
計　画	・小学校１年生に入学当初から５月まで「スタートカリキュラム」を実施し、保・幼稚園と小学校とのギャップを少なくしてスムーズに小学校生活が送れるように支援する。 ・小学１年生の生活習慣の確立や基礎学力の向上のために、４～１２月の間、教育支援員を雇用し、教育の充実を図る。
成　果	○支援員を各学級に配置することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる環境を整えることができた。
今後の方向性	・小１プロブレムの解消のため、スタートカリキュラムの更なる充実と、支援員の継続した配置を進める。

重点項目	グローバル人材育成事業
目　的	外国や日本の文化に慣れ親しみ、英語でのコミュニケーション能力を高め、国際的視野を広げる。
計　画	・小中学校で英語授業において、小中一貫した「Can Do リスト」を作成して英語をツールとしたコミュニケーション能力の向上を図る。 ・小学５・６年生の英語の授業で、オンライン英会話を行い、実践力を高める。

	・大学の留学生とのロゲイニングや、英語・母国語での絵本の読み聞かせ、English Bus ツアー等の「子どもカレッジ」を通して、異文化理解を深める。 ・英語検定３級以上の取得に対して、同一級１回の受験料を無料とし、受検者の増加を図るとともに、中学３年生卒業段階で８割以上の生徒が３級以上を取得できるよう目指す。 ・小学校での英語教育の充実を図るため、小学校に英語専科教員を配置し、ＡＬＴや中学校英語教員との連携・協働を行う。 ・英語暗唱コンテストを開催し、２０名以上の参加者を募り、高校生のモデルスピーチやＡＬＴ審査員の評価等を通して、国際人としての基礎を培うとともに、県内外のスピーチコンテストの参加を増やす。 ・英語をツールとした英語授業の充実に向けて、ＡＬＴ（外国語指導助手）を小学校・中学校に各１名配置し、幼稚園は毎週水曜日にＡＬＴと触れ合う。 ・土曜英会話塾では、小学５年生～中学３年生を対象に、年１５回開講し、実践的な英語表現を身に付ける機会を提供する。
成　果	○今年度、小中学校ともＡＬＴが新規となり、「Can Do リスト」を活用し英語専科・英語科教員と連携した学習を行うことができた。 ○小学校５・６年生でフィリピンとのオンライン英会話を実施し、３～４名のグループで英語に触れながら実践力を高めることができた。 ○幼稚園での英語の触れ合いや、小学１年生からの外国語活動を通して、英語での会話に慣れ親しんできた。 ○今年度、英語検定３級以上の受験者数はのべ１０８名となり、同一級１回の受験料を無料となる応援制度も周知され、受験者数、合格者共に増加した。 ○中学２年生を対象とした「Hayashima English Day」では、英語で早島の魅力を留学生に発信し、他国の文化を英語で聴き取るなど国際理解に努めた。 ○英語暗唱コンテストでは、昨年度の参加者１４名より大幅に増えて、町内外から３０名の参加があり、英語への興味・関心や挑戦する力が育っていると感じた。 ○土曜英会話塾では、小学５年生～中学３年生を対象に、年１５回開講し、１５名の児童生徒が実践的な英語表現を身に付けることができた。また、５歳児を対象とした Kids 英会話を３回行い、小学１年生の入学に向けて、互いに英語で触れ合う機会としたが、補助者にも幼児にも大変好評であった。

今後の方向性	・中学３年生までに英検３級以上の取得を目指して、英語検定応援制度の周知と活用をさらに推進する。 ・小学校の専科英語教員の配置や小グループでのオンライン英会話、中学校では、生徒一人一人にオンライン英会話の機会を設定し、自分の考えや思いを英語で意見交換する場づくりを行う。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニング、English Bus、早島夢の宝島ツアーin English などを通して、異文化理解や世界に視野を広げる場を引き続き設定する。 ・県内に早島町英語暗唱コンテストを周知し、英語力の活性化を図るとともに、ＡＬＴを活用した英会話塾やキッズイングリッシュの充実を図る。

重点項目	教育支援員活用事業
目　的	支援を要する児童生徒のサポートや別室登校者への対応等、個の教育ニーズを把握し適切な学習支援を行う。
計　画	・小中学校の特別支援学級への支援員配置や、中学校の心の教室への支援員配置等により、きめ細かな生活支援や学習支援、心のサポートを行う。 ・教員の指導力向上や児童生徒理解に向けて、カウンセラーや特別支援学校の教員等の専門家アドバイザーの派遣を行い、安心して過ごせる居場所づくりをサポートする。
成　果	○小中学校の教育支援員を対象とした研修を行い、児童生徒への声かけや支援について共通理解を図った。温かい声かけや個別の支援を行うことで、安心して学校へ登校できる児童生徒も多い。 ○カウンセラーやSSW、特別支援コーディネーターが各クラスのアセスメントを行った。教室環境や支援についてのアドバイスを受け、改善していくことで落ち着いて過ごすことができる居場所づくりができた。
今後の方向性	・教育支援員としての役割を明確にして、教員と一体となって適切な支援ができるように研修を重ね育てていく。 ・スクールカウンセラー等の専門家の意見を取り入れた環境づくりや児童生徒に寄り添った支援をチームとして行える体制づくりを行う。

重点項目	子育て支援の充実
目　的	幼稚園保護者の子育て支援を行う。
計　画	・幼稚園カリキュラムの充実を図るため、年少クラスは５月から弁当週１回、６月に週２回、７月からは週４回とし、４・５歳児と同様に１４時下校の日を増やす。

	・４・５歳児の給食の実施回数を増やし、食育の充実を図る。 ・保護者の子育て支援をサポートするために、預かり保育の指導員を増加し、幼稚園の預かり保育の充実を図る。 ・幼稚園庭を月１回開放し、就学前の子どもと保護者の支援を行う。 ・徒歩での通園や外遊びの推進、園内ではボルダリングの活用等による体力づくりや体幹づくりを行う。
成　果	○年長・年中児の給食は、保護者・園児から大変好評であり、様々な食材に接する機会が増え、好き嫌いの減少や食への興味・関心につながっている。園児は準備や片づけにも意欲的に取り組んでおり、自主性が養われている。 ○預かり保育では、１日６０人程度の園児を預かり、３名の預かり支援員と教員とで取り組んでいる。夜７時まで延長可能としているが、夕方６時までのお迎えが多く、７時までは１～２名であった。
今後の方向性	・早島町の子育てを充実させるために、幼稚園免許のある預かり保育支援員を継続的に配置し、預かり保育の充実を図る。

5　生涯学習重点事業に対する評価

1　スポーツ等による地域コミュニティの活性化

重点項目	スポーツ等による地域コミュニティの活性化
目　的	スポーツを通して地域コミュニティの活性化を図る。
計　画	・総合型地域スポーツクラブを実施し、花ござピンポンやグラウンドゴルフなどを通して世代間交流を図り、地域コミュニティの活性化へとつなげるとともに、地域住民の主体的な活動となるよう支援する。 ・第３回花ござピンポン世界大会を開催し、中・高生、留学生と地域の大人が実行委員として企画・運営し、早島の新しい魅力を町内外へ発信することで、町の活性化へつなげる。 ・中学生・高校生ボランティアの地域での活躍の場をスポーツ行事等で充実させ、町の行事で中高生が活躍することで早島町の活性化を図る。町民運動会、町民ソフトボール大会、早島町マラソン駅伝大会等を開催し、スポーツを通した町民同士の交流の場づくりを行う。 ・備中はやしま夏まつりや生涯学習まつりなどのイベントを通して、実行委員会を活用して、内容の充実・工夫を図り、町民との相互交流を図る。 ・ラジオ体操の推進や町民のスポーツ活動等を支援し、町民の運動習慣の定着を図る。
	○総合型地域スポーツクラブは毎月第３金曜日に早島小学校の体育館で実施している。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から開催できなかった回もあり、合計９回の開催となった。世代間交流を図り、地域コミュニティの活性につながったが、今後は、地域住民のよる主体的な活

成　果	動となるよう中心となる人づくりをしていく。 ○第３回花ござピンポン世界大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から開催できなかったが、開催までの準備を中高生、留学生と地域の大人が実行委員として企画し、開催前にマスコミ等を通じて、早島の新しい魅力を町内外へ発信することで町の活性化につながった。 ○今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種のスポーツ行事を行うことが出来ず、中学生・高校生ボランティアが地域で活躍する機会が少なかった。引き続き、中学生・高校生ボランティアが活躍できる場づくりに向けて地域行事や仕組みづくりを工夫し、町行事で中高生や小学生が活躍する場づくりを行い、町の活性化を図っていく。
今後の方向性	・各種のスポーツ行事について、今後、より多世代の参加や中学生・高校生ボランティアの参画を図り、世代間交流・地域コミュニティの活性化へとつなげるとともに、地域住民の主体的な活動となるよう支援する。 ・総合型地域スポーツクラブは、来年度から大学生ボランティアが主体に活動できるよう仕組みづくりを行う。

２　子育て・家庭教育支援の充実

重点項目	子育て・家庭教育支援の充実
目　的	家庭教育支援チームによる子育てや家庭教育の支援、親育ち応援学習プログラムのファシリテーター養成と親プロの実施、プレーパークによる親の集いの場づくり等を一体的に行い、家庭教育支援の体制づくりを行う。
計　画	・家庭教育支援チーム「すくすくハート」による子育てや家庭教育の情報提供や相談等を実施する。 ・親育ち応援学習プログラムのファシリテーターの養成と親プロ等の実施など、地域人材による親同士の学びの場づくりを支援する。 ・就学前幼児を対象に、プレーパークを定期的に開催し、保護者同士の場づくりや仲間づくり、子育て相談などの支援を行う。
成　果	○親育ち応援学習プログラムのファシリテーター、学校運営協議会委員、木の実会会長等を家庭教育支援チーム「すくすくハート」のチーム員として総勢１０名で、親同士の学びの場として連携・協働しながら、より効果的に取り組むことができるように進めることができた。 ○地域ボランティアや小学生ボランティアにより、はやしまプレーパークを毎月開催し、延べ２４５名が参加し、保護者や子どもの集いの場となった。また、家庭教育支援チーム員による保護者の子育て相談も行い、地域で子育て支援を行う仕組みづくりがスタートできた。 ○小中学校入学前の保護者を対象に、それぞれ「入学についての不安解消」「子どもの安全なスマホ利用」をテーマとした親育ち応援学習プログラム

	を実施したり、保幼小中の保護者を対象に、親プロファシリテーター等が中心となって「人権研修会」を行うことで、保護者同士による学び合いを３回実施した。 ○３月に総まとめとして、家庭での非認知能力の育成をサポートするために、岡大から講師を招き、保護者等を対象に地域講演会を行った。
今後の方向性	・家庭教育支援チーム「すくすくハート」の充実を図るとともに、そのチームを中心に、子育てや家庭教育支援を自主的に行う体制を整備する。 ・就学前の全家庭に必要な支援が届くような活動や仕組みづくりを検討し取り組んでいく。

３　「まなびの舎」の講座・教室の充実

重点項目	「まなびの舎」の講座・教室の充実
目　的	地域の方に生涯学習の場を提供するとともに、学びの成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計　画	・地域の愛着や誇りを育てる大人はやしま塾として、地元企業・団体・大学との連携や小学生との合同実施をさらに増やし、より地域を知り、地域に貢献するための講座になるよう工夫する。 ・受講者が取得した単位により、サポーターや講師に認定し、講座の運営や講座の企画等に参画できるよう、講師認定者での講座検討会を実施する。 ・小学生講座との合同実施や地元の学習資源との連携を増やすことで、より地域への愛着につなげる講座とする。 ・若い世代の受講者を増やすため、子育てに関する講座や体験活動等をさらに取り入れた内容を実施する。
成　果	○ＳＤＧｓカードゲーム、伝統的な踊りの体験、認知症サポーター養成講座、英会話等、実践的な２４講座を取り入れたことで、受講生が地域の学習リーダーになるためのスキルアップにつながった。 ○今年度初めて講師認定者が企画した講座（昔のおもちゃ作り講習会）を実施し、学びの成果を地域に生かす第１歩となった。
今後の方向性	・講師認定者の講座が継続できるよう、今年度講座を実施した認定者を中心に講座の企画についての提案やサポートを行う。また、認定者が放課後子ども教室の行事等で講師やボランティアとして活躍できる場を設けるなど、地域とのかかわりを強めていく。 ・コロナ禍で、地元企業・団体・大学との連携や小学生との合同実施が難しい現状があるため、社会情勢を考慮しながら徐々にかかわりを増やしていく。

4　社会教育施設の充実

重点項目	社会教育施設の充実
目　的	施設の設備を行い、利用しやすい環境づくりを目指す。
計　画	・西コミュニティセンターのトイレの洋式化を行う。 ・老朽化して汚れた公民館１階のカーペットの張替を行い、過ごしやすい公民館とする。 ・良質な音楽をゆるびの舎から発信するために、１９９７年製で約２２年が経過して各部の消耗が激しく見受けられるため、スタインウエイピアノのオーバーホールを行う。
成　果	○西コミュニティセンターのトイレの洋式化や中央公民館１階のカーペットの張替え等の施設整備は完了し、利用しやすい環境整備が図れた。 ○ゆるびの舎のスタインウェイピアノのオーバーホールが完了し、生まれ変わった文化ホールの「顔」ともいわれるグランドピアノを今後も永く愛用し活用していきたい。
今後の方向性	・西コミュニティセンターの集会室の畳替えを来年度実施する。 ・今後も点検等を行い、計画的に老朽化している施設や設備等の修繕や更新による整備を進めていく。 ・来年度には、スタインウェイピアノを使用した公演を予定している。

5　地域ぐるみによる教育体制の充実

重点項目	地域ぐるみによる教育体制の充実
目　的	学習支援や体験活動を中心とした「はやしま学」を通して、地域ぐるみの教育体制を築きながら、郷土愛を深め、社会貢献意識を高める。
計　画	・「子どもカレッジ体験事業」として大学で学ぶ英会話体験や専門家が指導する科学教室等へ子どもたちを参加させることによりより高度な学びを体験させることにより、子どもたちの学ぶ意欲や知的好奇心などを高める。 ・長期休業中に小学生に、「わくわくサマーホリデー」や「わくわく算数教室」「料理教室」などを実施し、様々な体験活動によって視野を広げる。 ・数学検定・漢字検定・英語検定３級以上の取得を目指し、支援体制を作る。 ・土曜日・放課後・長期休業日を利用し、はやしま学、ロゲイニング、英会話塾、夏休みわくわくタイム等の事業を行い、補充学習や発展学習、体験学習など魅力ある講座の充実を図る。 ・地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。
	○長期休業中の「わくわくサマーホリデー」では、約１３０名の児童が参加し、地域の歴史や自然、ＳＤＧｓ等について楽しく学ぶ１０日間の体験を

成　果	通し、郷土愛を深めるとともに、これからの社会での自身の役割等を考えることができた。 ○小学生が提案・企画した「不老のみちロゲイニングラリー」を実現したことで、郷土愛が深まり、社会貢献意識も高まった。３１チーム、１１４名と、子どもから大人まで多数の参加があり、大変好評だった。 ○早島っ子サポートボランティア制度により、多くの地域の方が土曜日・放課後・長期休業中の事業にボランティアとして参画し、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築が進み、登録者５０名となった。
今後の方向性	・ロゲイニングに様々な教科の要素を組み合わせた「教科ロゲイニング」を実施し、身近な学習の楽しみに触れる機会を設ける。さらに、町内外の大人から子どもまで広く参加をつのり、早島の魅力をより幅広い層に伝えていく。 ・コロナ禍で、「子どもカレッジ体験事業」ができていないため、社会情勢を考慮しながら実施していく。また、リモートでの交流や、人数を限定しての実施など、実施方法を工夫して教育効果を高めていく。

6　ゆるびの舎での自主事業の充実

重点項目	ゆるびの舎での自主事業の充実
目　的	町民の芸術・文化意識の向上を図るため、様々なジャンルの公演を鑑賞する機会の提供と気軽に参加できる場づくりを行う。
計　画	・「吉田兄弟の三味線によるコンサート」を開催し、日本の伝統芸能に触れる機会を提供する。 ・“笑い”を通じて町民の「心の健康づくり」の推進を図ることを目的として落語会を開催する。 ・様々なジャンルの提供を目的として、高校演劇を誘致する。 ・町民に日頃の練習の成果を発表する場を提供することを目的に、文化ホールスタインウエイピアノを開放し、ピアノリレーコンサートを開催する。
成　果	○「吉田兄弟のコンサート」はコロナウイルス感染予防対策を徹底し、会場の人数制限を行い、２回公演で開催した。公演では、二人の原点である「三味線だけの世界」の迫力ある演奏で観客を魅了した。来場者からは「たくさんの音色が聞けて楽しいひと時だった」「二人の息の合った演奏に感動した」「久しぶりに本物音楽を生で聴けて大変満足した」などの感想が寄せられ大好評であった。 ○感染予防対策を徹底し、令和の爆笑王こと四代目「三遊亭圓歌」、ゲストに人気落語家の「柳家喬太郎」らを迎え盛大に開催した。来場者からは「プロの芸に感激した」などの意見が寄せられ、大いに笑い楽しみ四代目の襲名をお祝いし、本物の文化に触れることができた。

	○２日間で１６０名のピアニストがピアノリレーコンサートに参加し日頃の練習の成果を発表することができた。感染症対策に万全を期して開催し、コロナ禍で発表の場が少ない中、参加者から喜んでもらうことができた。
今後の方向性	・ゆるびの舎文化ホールの顔である「スタインウェイピアノ」がオーバーホールを終え戻ってくるので、それを活かした事業を展開する。具体的には、町民の方々に演奏していただく機会を提供できる「ピアノリレーコンサート」。また、高質なピアノの音色を鑑賞する機会を提供するため、プロによるコンサートも計画する。 ・文化ホールで「早島シネマ」を毎月開催し、住民のニーズや稼働率を高める。

7　図書館活動の充実

重点項目	図書館活動の充実
目　的	図書館機能を活かした読書活動の推進を図る。
計　画	・小・中学校の図書館や教員との連携を深め、学習支援を充実させるとともに、園児児童生徒の読書量とＮＩＥ活動の充実を図る。 ・町立図書館と小中学校図書館とのネットワーク化を活かし、早島町内の読書環境の充実や読書量の拡大を図る。 ・朗読や図書館チャレンジ体験等、講座や体験活動の充実を図る。 ・留学生との外国の絵本の読み聞かせを行うなど、町立図書館にできるだけ多くの児童生徒が来館するよう工夫を行う。 ・子育て支援として、スタディースペースや絵本コーナーの充実を図る。
成　果	○学校園との団体貸出の見直しと拡大、担当者会を実施し連携強化を図った。 ○コロナ対策をしながら、公開講座として古典文学講座、防災講座、朗読講座、絵本講座を８回実施し、内容も好評であった。 ○キッズコーナー、ティーンズコーナーの整備充実を目指して、図書の見直しを行い、読書環境の向上に努めた。
今後の方向性	・「第３次早島町子ども読書活動推進計画」の策定を通して、各機関の担当者と人間関係を築き、目標を共有し、今後おおむね５年間の活動につなげる。 ・学校園とのネットワークや研修で支援・連携に努め、図書館利用を推進する。 ・ホームページや図書館だよりなどの広報に積極的に取り組み、行事への参加や図書館利用者層の拡大を図る。 ・館内各コーナーや掲示の整備・充実を図り、読書環境を整える。 ・高梁川流域連盟、岡山中枢都市圏による周辺市町との相互利用について対応可能な政策を図り、県内主要図書館としての役割を果たす。 ・コロナ禍で実施しにくかった体験活動やボランティア等によるお話会について、実施可能な方法を模索する。

Ⅳ　点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学全学教育・学生支援機構　准教授　　中山　芳一

■教育委員会活動について

月１回の教育委員会会議の定期的な開催や、年２回の町長との総合教育会議、学校関係者や学校運営協議会委員など様々な立場の方との熟議を重ねて、教育委員会が地域に開かれて前に進んでいることはすばらしいことです。義務教育学校についても熱心に協議を重ねてこられ、一定の方向性が出たということで、今後は、議会や保護者・地域の方に丁寧な説明を行っていき、実現に向けて努力してほしいと願います。５・６年生が中学校地で授業を受けることは教科担任制が進むことであり、大いに期待しています。また、幼稚園、小学校、中学校の様子を視察して、教育の現場を実際に自分の目で確かめることは、当事者意識を高める上で大切なことであり、教育委員会議事録を読む限りでも、充実した会議であったと拝察します。

「子どもと大人の意見交流会（熟議）」、「子ども議会」、「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」など、新型コロナウイルス感染症の流行により開催が危ぶまれる中、感染症対策を行った上で、学びの歩みを止めることのないよう開催されたことは特筆すべき点です。年々回を重ねるごとに充実をしていく中、「協働・協学・協育の町づくり」が着実に進んでいると思います。このように、様々な世代が共に語り合う場を継続的にもつことで、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」が育ち、地域の大人達もそれぞれの立場から課題解決に取り組もうとする「当事者意識」が生まれてくるように感じます。

他にも、学校施設の改修では、トイレの洋式化や特別教室・給食調理室の空調設置など、子どもたちが安全・安心に学校園生活を過ごせる環境を整備し、人的配置については、教育支援員や町費講師の配置など、きめ細やかな支援ができていることから、今後は、第５次総合計画等の方針に基づき、「早島町学校教育ビジョン」をさらに推進できるでしょう。

■学校教育について

学校教育では、授業改善に向けて小中合同の教科会を開くなど、一貫性のある授業づくりが進んでいます。また、ＥＳＤとキャリア教育の視点から、ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえた、総合的な学習の時間のカリキュラムや、教科等横断的な単元学習プログラムを構築しており、非認知能力の育成も着実に進められています。学校教育ビジョン推進委員会を定期的に開催することで、４部会での協議も深まっており、今後、更にブラッシュアップすることを願っています。また、学力・学習状況調査結果については、調査結果を入念に分析し、早島の児童生徒に必要な課題を見極め、各学校が「早島ラッキー７計画」を立てて、授業改善を図っていることは望ましいと思われます。ただ、家庭での学習時間は大きな課題であり、タブレット・ドリルを活用するなど、教職員の意識を高め、保護者の協力のもと、家庭での生活リズムを整えていく必要が大いにあります。

地域における「はやしま学」では、土曜・放課後はやしま塾、土曜英会話塾、ロゲイニング、子どもカレッジ体験活動など、地域に様々な学びや体験の場が用意されており、ス

タッフのチームワークはすばらしいと感心しています。また、英検無料応援制度を設けて、英語・漢字・数学検定を定期的に実施したり、英語暗唱コンテストの参加者も年々増加したりなど、英語力向上へのニーズの高まりを感じるとともに、こうした機会を設定している「はやしま学協働本部」の充実は模範になるものだと思います。

ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて、ネットワークの構築や一人一台端末が整備されたことを受け、児童生徒の個別最適学習や協働的な学習の充実に向けて、効果的なＩＣＴ活用が望まれます。全教職員が全教科で、少々無理をしてもまずは活用してみようという気概をもち、誰一人取り残すことのない教育の実現に向けて、計画的・組織的に、教員のＩＣＴ指導力を高める取組を進めてください。

■生涯学習について

早島町では学校教育と生涯学習の融合のもと、学校教育ビジョンの目指す子ども像「地域とつながり、未来を拓く早島っ子」の育成を目指し、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、「協働・協学・協育」の町づくりを進めています。今回は中止になりましたが、「第３回花ござピンポン世界大会」の取組は、中高校生・留学生・地域の大人が一緒に企画・準備をする中で、伝統文化や郷土への誇りや早島の魅力を発信することを通して、地域の大人と一緒に早島愛を育て町の活性化につながる素晴らしい大会であり、町外へ発信する大会にまで育っており、来年度の実現が楽しみです。また、今年の「不老のみちロゲイニングラリー」は、子ども議会で小学生が提案したものを、長期休業中の「わくわくサマーホリデー」の体験学習として、地域の問題やキャラクターづくりを行い、１１月の生涯学習まつりで実施し、１５０名の大人・子どもが一緒に汗を流しながら、地域の歴史や文化財等の魅力を学ぶ事業へとつなげていったことは、“協働・協学・協育”の町づくりにつながる具体的な方法の一つであり、大きな成果だったと思います。

また、家庭教育支援チーム「すくすくハート」を中心とした保護者の子育て相談、保護者がファシリテーターを務める「親育ち応援学習プログラム」等による親同士の学び合い、就学前の幼児を対象としたプレーパークの定期的な開催など、子育て世代の多い早島町で、家庭教育支援が年々高まってきていることもすばらしいです。他にも、総合型地域スポーツクラブの主体的な取組への移行や、ゆるびの舎の指定管理制度の導入など、今後も課題も踏まえながら、「生涯学習のまち・早島」として、地域の教育力がより一層充実するような取組を進めてください。そうすることで、早島愛が育ってくると思われます。

■今後に向けて

行政・学校園・地域が様々な場を通じて創り上げてきた学校教育ビジョンが周知され、その効果が着実に表れてきていると感じます。早島の教育が未来へ受け継がれ、持続可能なものとなるためには、これまでの取組を振り返り、その効果を見極める必要があります。来年度も、皆様方のすばらしいチームワークで、本稿で述べた諸事務･事業に対する意見を参考にして、学校教育ビジョンの更なる具現化を大いに期待しています。

Ⅴ　おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学　中山芳一准教授から、点検・評価をしていただき、ご意見や今後の方向性についてご示唆をいただきました。

本年度は、ＩＣＴの一人一台端末の充実を図るとともに、新学習指導要領に示された内容に則り、小学校での全面実施、令和３年度は中学校での全面実施に向け、計画的に授業改善を行ってまいりました。令和３年１月には、「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が出されました。社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来や先行き不透明な「予測困難な時代」の中にあって、新学習指導要領の着実な実施と一人一台端末の活用により、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるようにすることが求められています。まさに今、本町で取り組んでいるＥＳＤとキャリア教育を位置づけたカリキュラムの構築やその基盤となる非認知能力の育成に向けた取組がその最先端であると考えています。

本町では、平成２５年１０月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を３つの重点項目に掲げ、平成２７年度から、早島町第４次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その更なる具現化に向けて取り組んできたところであり、現在は義務教育学校を視野に入れた、第５次総合計画を策定しているところです。

こうした中、環太平洋大学や岡山大学の留学生、近隣の高校生や大人の方など、大勢の方に感染症予防対策をした上で参加していただき、町探検ロゲイニングや土曜英会話塾、英語暗唱大会、だっぴとの生き方交流会などを通して、地域理解や国際的視野を広げてきました。また、道徳郷土資料「私たちの早島 つなげ未来へ」を活用した道徳授業や地域フィールドワークなど、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、キャリア教育の視点を踏まえて、「協働・協学・協育」の町へと一歩ずつ着実に進んでいると確信しています。

また、文部科学省のＥＳＤ研究指定のもと、小学校を中心に２年間研究に取り組み、保幼小中一貫教育に向け、ＥＳＤの視点を踏まえた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を図りました。引き続き、昨年度より中学校を中心に２年間の研究指定を受け、キャリア教育の視点と非認知能力の育成に向けて、中学校区で一体となった研究を進めてきたところです。中学校では、ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえた、教科等横断的な単元学習プログラムを作成し、９月に「ＳＤＧｓ週間」を設定し、特色ある取組を進めてきました。この２月に、こうした研究成果を最終報告として全国発信を行ったところです。

来年度からは、小中一貫カリキュラムに、一人一台端末を活用してＩＣＴをツールとした探究活動などに取り組み、更にバージョンアップするとともに、各教科等でＩＣＴを活用した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究を進めていくこととしています。

今後も、持続可能な早島の教育の実現を目指して、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスから見える現状をきちんと分析・検証し、数年後の義務教育学校を見据えて、ハード面での検討や小中学校の一体的な教育課程の編成に取り組んでいきたいと考えています。これからも、「早島の子どもたちの成長のために」を合言葉に、早島の未来を見据えた教育行政の充実を行政・学校園・地域と一体となって取り組んでまいります。